



そよ風

- 1～3 院内研究報告会
- 3 院内研修
- 4 平成 24 年度事業計画
- 5 平成 24 年度主要行事計画
- 6 福祉サービス第三者評価
- 7 療育活動
- 8～9 QOL 向上プロジェクト
- 10 春の発表会・学会開催報告
- 11 留学生見学報告
- 12 人事異動

第 20 回院内研究報告会

開催日：平成 24 年 2 月 29 日(水)

当センター開設当初から開催している院内研究報告会も今回で 20 回目を迎えることとなりました。毎年、日々の業務改善状況を確認しつつ、研究成果の発表を通して、学術的資質の向上とセンター内外の評価を受ける機会としています。

今回の報告は、口頭発表が 11 演題、紙上発表が 1 演題の計 12 演題でした。特に優秀な研究については、外部学会等への発表及び論文を専門誌に発表するようにしています。近く全演題を論文の形に整えて、研究報告集第 20 巻として発刊する予定です。

また、今回は特別講演として、国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科医長中川栄二先生をお迎えし、大変貴重な講演をしていただきました。



最優秀賞

『人工呼吸器を装着した超重症心身障害者の離床への取り組み』

第 1 病棟 宮寺健司 他

優秀賞

『病棟と連携した夜間ポジショニングの有効性』

リハビリテーション科 小林愛 他

努力賞

『摂食機能療法実施報告 ～摂食機能療法実施後に経口摂取が可能となった症例～』

摂食・嚥下リハビリテーションチーム + 第 2 病棟 吉野綾子 他

『重症心身障害児(者)の通所における外出活動について』

よつぎ療育園 辻脇立子 他

その他の演題

『自己刺激行動を反復して行う重症心身障害児(者)に対するアプローチ方法の検討』

第 2 病棟 松田実樹 他

『重症心身障害児(者)に対する便秘改善への取り組み』

第 3 病棟 杉山陽子 他

『自閉症傾向を示す重症心身障害児(者)への対応とその効果』

リハビリテーション科 亀井真由美 他

『脳性麻痺患者の股関節周囲筋への A 型ボツリヌス毒素治療と問題点』

医局 荒木克仁 他

『東日本大震災時における医薬品の需給(報告)』

薬剤検査科薬剤室 飯塚憲太 他

『重症心身障害児者の色によるリラクゼーション効果を上げる試み』

第 4 病棟 赤松宏美 他

『活動参加機会の確保と内容の見直し ～粗大運動活動の提供を通じて～』

あけぼの学園 成人グループ 藤原晴子 他

『A 君の呼名反応形成の試み』(紙上発表)

あけぼの学園 幼児グループ 井出圭祐 他

特別講演

『みんなに知ってほしいてんかんの基礎知識』

国立精神・神経医療研究センター病院 小児神経科医長 中川栄二 先生



第 1 病棟 宮寺健司 矢崎千草 田中智子

私たち第 1 病棟は、院内研究発表会において最優秀賞を頂きました。まずは、今回の研究にご指導、ご協力頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

研究開始当初より、利用者さんの生活の質の向上へとつながる内容にしたいと考えていました。そこで、終日呼吸器を装着し、日常のほとんどをベッドで過ごされている利用者さんに少しずつデイルームに出ていただいて、活動に参加する機会を提供できればという思いでこの研究に着手しました。研究を進めていくにあたり、戸惑うことばかりでしたが、病棟職員の協力もあり、今では朝の会に参加する機会を得られている事、昨年秋にはセンター外周散歩にも出かけていた姿を見ると、とてもうれしく思います。

今後も、利用者さんのために出来ることを考え、皆様が充実した日々を送ることが出来るよう努力していきたいと思えます。最後に、同じ目標に向かって一緒に歩んでいただいた利用者の A さんと見守ってくださったご家族の方々に深く感謝の意を申し上げます。



1・2・3月の院内研修

基礎コースⅠ	○ 1 年間のまとめと課題
基礎コースⅡ	○ 2 年目のまとめと課題(第 2 回)
基礎コースⅢ	○ 3 年間のまとめと課題
一般コース	○療育研究 (第 6 回) ○施設見学 (聖隷おおぞら療育センター) ○施設見学 (あしかがの森足利病院) ○プリセプター
専門コース	○摂食・嚥下障害ケア (第 4 回)
管理コース	○係長研修

4・5・6月の院内研修予定

基礎コースⅠ	○新任オリエンテーション	4/2 (月) ~ 4 (水) 4/12 (木) 4/13 (金)
	○摂食・嚥下障害ケア (第 1 回) ○看護 (療育) 記録	6/4 (水) 6/29 (金)
基礎コースⅡ	○救急看護	5/30 (月)
一般コース	○療育研究 (第 1 回) ○リーダー研修 (第 1 回) ○療育研究 (第 2 回)	5/10 (木) 6/7 (木) 6/12 (火)
専門コース	○摂食・嚥下障害ケア (第 1 回) ○呼吸ケア (第 1 回)	5/29 (火) 6/26 (木)
管理コース	○昇任時主任研修	6/14 (木)

平成 24 年度事業計画

東大和療育センターは、平成 18 年度から 5 年間東京都から指定管理者に指定されました。この 5 年間、民間経営の発想やノウハウを取り入れ、利用者サービスの向上、経費の削減に努めてきましたが、こうした実績などが評価され、平成 23 年度からの 5 年間についても引き続き東京都から指定管理者に指定され、平成 24 年度は 2 年目を迎えることとなります。

本年度は、一昨年末に策定した「東大和療育センター中期計画」を基に、これまでの事業実績とこれを踏まえた課題等を見つめ直しその改善をさらに進めるとともに、今後の東京都の行政施策の方向性に合致するよう計画の具体化を図り、着実に実行してまいります。また、本年 4 月から施行される整備法など新制度の移行に的確に対応するため、関係機関との連携のもと手続など円滑な運営に努めるとともに、利用者サービスのさらなる推進など組織目標の実現を図ってまいります。

1 運営方針

- 快適な療養環境を確保し、専門的で質の高い医療・療育サービスを提供します。
- 医療安全管理の徹底を図り、安全で安心できる医療の充実を推進します。
- 丁寧で分かりやすい説明と接遇の向上を図り、納得と信頼ある施設の実現を推進します。
- 療育上の相談や看護・介護技術の指導等を通じて在宅支援の充実を推進します。
- 職員が一層やりがいを持って働けるよう職場の環境づくりに努めます。

2 入所・入院

定床 128 床

- (1) 長期入所については、92 床で運営します。
- (2) 短期入所については、28 床で運営します。
- (3) 医療入院については、8 床で運営します。

なお、短期入所、医療入院は枠にこだわらずに日程調整により空床を利用して、より多くの在宅者が利用できるようにし、稼働率の向上に努めます。

3 外来診療

- (1) 1 日当たり 150 名の事業規模で運営します。
- (2) 診療室や手術室の効率的な運用により待ち日数の短縮を図ります。
- (3) 地域の医療機関との連携を促進し、心身障害児(者)の専門医療に対する要望に十分応えられるよう努めてまいります。

4 通所事業

在籍者 36 名、1 日受け入れ人数 30 名で運営します。

ご家族の負担を軽減するため、通所バスについては 5 台で送迎を実施します。

また、引き続き受け入れ時間延長を行うことなどにより、サービス向上に努めていきます。

5 在宅支援と地域社会との協調

- (1) 医療ニーズの高い在宅障害者が増加していることに加え、在宅でこれまで支えてきた介護者の高齢化が進んでいます。このため、効果的、効率的に在宅生活を適切にサポートする体制作りとして「在宅支援室」を昨年 10 月に開設しましたが、この機能を強化し、地域に開かれた施設としてさらなる充実に努めます。
- (2) 市町村や特別支援学校等の健診事業への協力を通じて、地域医療の充実と向上に寄与します。
- (3) ボランティアの積極的な受け入れや入浴施設、プール等の施設開放事業の推進、さらには地域への普及啓発活動などの実施を通じて、障害児(者)を地域で支えあう基盤を築いていきます。

平成 24 年度主要行事計画

病棟・通所行事

●大行事

- 1 夏祭り 8月3日(金)
- 2 東大和フェスタ 10月13日(土)
- 3 クリスマス会 12月
- 4 遠足(通所)
平成 24 年度から実施回数を増やして、通常の通所と並行して企画する。
- 5 タベの会(通所)
平成 23 年度と同様 3 回実施する予定。

●小行事

- 1 季節の行事
七夕、夕涼み、お月見、節分、ひな祭り等
- 2 バイキング
年間 1 ~ 2 回、各部署毎に企画し実施する。
- 3 病棟合同活動
①プラネタリウム鑑賞会
②映画鑑賞会

ボランティアによる音楽会

- 1 多摩スマイル吹奏楽 6月
- 2 駒澤大學高等学校吹奏楽 9月
- 3 多摩っ子パブルス 10月
- 4 東京都立東大和南高等学校吹奏楽 1月

リハビリテーション科行事

- 1 初夏のダンスパーティー 6月
- 2 ボッチャ大会 10月
- 3 春の発表会 3月

栄養科行事食

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 お花見弁当 4月 | 11 クリスマス会 12月 |
| 2 こどもの日 5月5日(土) | 12 クリスマス食 12月24日(月) |
| 3 お楽しみ弁当 6月 | 25日(火) |
| 4 七夕食 7月7日(土) | 13 年越しそば 12月31日(月) |
| 5 土用の丑の日 7月27日(金) | 14 おせち料理 1月1日(火) |
| 6 開設記念日 8月1日(水) | ~3日(木) |
| 7 夏祭り 8月3日(金) | 15 七草 1月7日(月) |
| 8 秋分の日 9月22日(土) | 16 節分 2月3日(日) |
| 9 東大和フェスタ 10月13日(土) | 17 バレンタイン 2月14日(木) |
| 10 文化の日 11月3日(土) | 18 ひな祭り 3月3日(日) |

■なお、日程につきましては変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

福祉サービス第三者評価

- ・ 評価機関名 株式会社日本生活介護
- ・ 受審した福祉サービスの種別 重症心身障害児施設（入所）及び重症心身障害児（者）通所施設
- ・ 評価の結果の概要

1 入所

(1) 特に力を入れている取り組み

- ①利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。
- ②手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている。
- ③利用者の健康を維持するための支援を行っている。

(2) 特に良いと思う点

- ①職員育成システムを整え、実践的で専門性に富んだ職員の育成に努めている。
- ②院外療育活動の機会を積極的に作るなど利用者が多様な体験を積めるよう職員が創意工夫を凝らしている。
- ③嚥下指導、与薬の手順確認、感染予防など専門チームが病棟職員と連携して巡回指導を行い、利用者の安全安心の確保向上に努めている。

(3) さらなる改善が望まれる点

- ①在宅の重症心身障害児（者）の相談や短期入所を担う「中核支援施設」として、在宅支援に関するより一層の機能強化に期待したい。
- ②センターでは、IT 化が急務であるとしており、他施設の状況を研究し最適な業務の電子化が進められることを期待したい。
- ③利用者の生活環境改善、職員の職場環境の見直しなどの面から、ハード面の改善促進が期待される。

2 通所

(1) 特に力を入れている取り組み

- ①利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の療育・支援計画を作成している。
- ②おいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している。
- ③施設と家族等との交流・連携を図っている。

(2) 特に良いと思う点

- ①利用開始に際しての家庭訪問には、生活支援員と共に医師・看護師が同行し、安全安心細心な対応が行われている。
- ②手順書の順守徹底状況の確認を行うために、担当委員が巡回パトロールを行うほか、職員自身が自己評価を行って振り返りに努めている。
- ③利用者一人ひとりの食事介助マニュアルが整備され、安全安心な食事が提供されている。

(3) さらなる改善が望まれる点

- ①在宅の重症心身障害児（者）の「中核支援施設」として、在宅支援に関するより一層の機能強化に期待したい。
- ②院外療育など日中活動の多様化に更なる工夫を期待したい。
- ③利用者の生活環境改善、職員の職場環境の見直しなどの面から、ハード面の改善促進が期待される。

療育活動

通所の成人式

通所係保育士 吉本 瑞穂

1月14日(火)、通所では今年成人を迎えたFさんの成人式が晴れやかに行なわれました。会場には、大勢の利用者さんご家族が集まり、式が始まりました。皆が見守る中、この日のために仲間が作った花のアーチをゆっくりくぐって登場です。少し緊張したFさんは、スーツにネクタイをしめ、いつもより大人びて見えました。

会場が暗くなりスライドショーが流れ、誕生から現在に至るまでのエピソードがお母様から紹介されました。いつでもたくさんの友達に囲まれて人気者、今にも笑い声が聞こえそうな元気いっぱいの学校時代。仲の良いご家族と行った旅行での一場面。当時の思いや伝えきれないほどの出来事が皆の心に響き渡り会場は感動の渦となりました。

そして、最後に仲間が作ったお祝いのくす玉が勢いよく割られ拍手とともにセレモニーの幕が閉じ、仲間と一緒に作った成人式は、皆の心温まる時間となりました。

Fさん成人おめでとうございます。



アニョハセヨ!みんな大好きバイキング!

第4病棟指導員 江崎 大介

2月8日(水)、第4病棟では遅めの韓流ブームに乗っかり、韓国料理のバイキングを行いました。第4病棟で韓国料理のバイキングは初めてだったようで、皆さんとても楽しみにしていました。

メニューはサムゲタン、ビビンバ、サムギョブサル、チョレギサラダ、キムチ盛り合わせ、パッピンス、コーン茶などなど、韓国好きにはたまらない料理がずらりと並びました。

サムゲタンには鶏が丸ごと一羽入っていました。びっくりしている方もいて、目で見て楽しむこともできました。いつもと違う料理のせいかな?? 野菜をあまり食べない方が、並んでいる時からサンチュをパクパクつまみ食い……。もっと食べれるよ!おかわりできるかな!?!と もっと食べたいとアピールする方もいました。



これで今年度の昼食バイキングは終わってしまいました。また次のバイキングが何か?? 今からワクワク、楽しみです☆

QOL 向上プロジェクト

「病棟・通所の枠を越えて、利用者の皆さんに楽しんでもらえる何か新しい活動ができるだろうか」と、QOL 向上プロジェクトチームを立ち上げ、検討を始めたのが去年 5 月のことでした。お散歩の時に、日除けに使ったあの折り畳み式のテントもプロジェクトチームのアイデアです。

平成 23 年度、初めて企画した 3 つの活動を続けて紹介いたします。

プラネタリウム鑑賞会

第 4 病棟指導員 八代 史章

1 月 26 日(木)に東大和市郷土博物館でプラネタリウムを鑑賞しました。

当日は、病棟・通所利用者さん 14 名、ご家族 6 名、職員 12 名の計 32 名が 5 台の通所バスに分乗し、10:30 にセンターを出発、約 10 分で東大和市郷土博物館に到着しました。

プラネタリウムの上映時間は約 45 分で、前半の番組は、「季節の星座」で 1 月のいろいろな星座を観ることが出来ました。後半は、「宇宙はノンストップ」という宇宙の動きをわかりやすく説明した番組でした。

利用者さんは、普段とは違う空間の中で、きれいな星の映像や音楽でリラックスした表情が見受けられました。また、団体貸切りだったので、ゆったりと観ることができました。

平成 24 年度もプラネタリウム鑑賞会を企画していきたいと考えています。



激闘!! Wii ゲーム大会

第 2 病棟指導員 高田 貴二

今回、屋内で楽しめる Wii ゲーム大会を開催しました。他病棟との交流を目的とした、まさにエキサイティングな大会となりました。

全病棟が日々の自主トレーニング?! の成果を随所に発揮した大会になりました。競技種目は Wii スポーツ「ホームラン競争」です。

さて、どの病棟が優勝したのか実況を踏まえて解説したいと思います。

第一試合は 2 月 8 日(水)、第 3 病棟 VS 第 4 病棟。結果は、第 4 病棟の勝利でした。第二試合は 2 月 9 日(木)、第 1 病棟 VS 第 2 病棟。結果は第 2 病棟の勝利でした。熱戦はこれで終わることなく、決勝、3 位決定戦と続きます。試合は、2 月 16 日(木)、全病棟の選手達がプレイルームに集まり、職員と手を握り合い、一喜一憂をして大盛り上がりをしました。各病棟の応援団も迫力ありましたね。あの大型スクリーン



も迫力があつたのではないのでしょうか。

表彰式では、優勝した第2病棟の選手達に森生活支援科長補佐より優勝カップが手渡されました。おめでとうございます。次回はどの病棟が優勝カップを手にするのでしょうか。次回は、あの病棟かな…。



映画鑑賞会

第1病棟指導員 松永 正人

3月8日(木)まだ肌寒い曇天の中、QOL向上プロジェクトの今年度最後の企画、合同映画鑑賞会を実施してきました。参加者は総勢30名(利用者さん13名ご家族3名職員14名)。行きはモノレールでの移動でした。駅のエレベーターもモノレールの車内もハイジャック状態になるんじゃないかと心配していましたが、時間差攻撃が功を奏し、さりげなく(笑)立川シネマシティに到着することができました。

映画は「ドラえもん のび太と奇跡の島 ~アニメ アドベンチャー~」。映画はお約束通り、ドラえもんの秘密道具が使えなくなるアクシデントあり、静香ちゃんの入浴シーンあり、感動の救出劇がありと期待を裏切らない内容で、利用者さんも声を出してリアクションをしたりしながら、貸切りの映画鑑賞を楽しんでいた様子でした。

この企画では、配給会社と映画館の予定、それに療育センターの都合を合わせるのが、とても大変でしたが、無事に大成功のうちに終わることができました。ありがとうございました。



春の発表会

リハビリテーション科作業療法士 水野 充美

リハビリテーション科では 3 月 6 日(火)に「春の発表会」を開催しました。

今年も毎年恒例の「ひょっこりひょうたん島」の曲に合わせて皆で元気よくダンスをして盛り上がりスタートしました。

星組は「私の青い鳥」の曲に合わせて、グループで行っている活動を、海組はメンバー 1 人 1 人が、きれいな衣装に着替えてファッションショーを、こけっこグループは日頃グループ活動で行っている個別活動を披露しました。トマトグループは正装に着替え、ベートーベンの第 9 の



曲に合わせて元気よく歌ったり、指揮したり、楽器演奏をしました。ちょうちょグループはアクリル絵の具を使って「春の野原」をテーマに一枚の大作を描きあげました。最後にアルプスグループでは各メンバーが作った詩の朗読を行ないました。その他にも職員がキャディーになり、ホールインワン目指してのゴルフや絵本の披露、車椅子ダンスなど、日頃の活動の成果を存分に披露できたと思います。

今年も数多くの方々が見学に来てくださり、ありがとうございました。来年もお楽しみに。



学会開催報告

副院長 鈴木 文晴

当センターは地域の心身障害児(者)を支援するための種々の学会を開催したり、開催に協力したりしています。

3 月 3 日(土)、第 9 回多摩療育と栄養研究会(代表者倉田院長)を当センター 3 階研修室で開催しました。今回の当番幹事は島田療育センターですが、会場は当センターとし、我々も運営に協力しました。プログラムはまず一般演題 4 題(下記)で開始。

1. 当センターでの摂食嚥下外来の患者動向(島田療育センター)
2. 当院における重症児者に対する経管栄養剤の選択とその実践(東京小児療育病院)
3. 重症心身障害児・者の排便コントロールに対するグアガム加水分解産物(PHGG)の使用経験(島田療育センター)
4. 胃瘻造設術後の下痢に、水溶性食物繊維を含む高濃度液状栄養物が有効であった 1 例(島田療育センターはちおうじ)

次いで久留米大学医学部小児外科田中芳明先生による特別講演「経管栄養に必要な基礎知識」をいただき、大変勉強になりました。

参加者は約 50 名で、活発な質疑が交わされ、盛会でした。職種の垣根を越えての勉強ができますので、当センター職員のさらなる参加を期待します。

■ アメリカ合衆国から医学部の学生さんが見学にみえました ■

副院長 鈴木 文晴

2月9日(木)、アメリカの南カリフォルニア大学医学部の学生さん二人(中国系アメリカ人のヘンリー・ウーさんと、日本人でアメリカに長く留学している月本光彦さん)が当センターに見学にみえました。南カリフォルニア大学はアメリカでも歴史のある、名門大学です。お二人は同大学と日本医科大学との交換留学制度を利用して、約1カ月滞在し、当センターを含む日本の医療機関を見学しました。

当日朝当センター到着後、病棟や外来の見学、また日本の障害者医療・福祉の制度、特に重症心身障害児(者)に関する制度の説明を受け、同時に活発な質問をされました。特に進行性疾患の医療や、長期入院をしなくてはならない場合の問題など、倫理的な問題にも関心があり、むずかしい質問が出ました。

昼食は栄養科にお願いして利用者さんと同じ食事を食べ、また種々の調理形態の嚥下補助食も食べてもらいました。お二人は最初きざみ食やペースト食を見てびっくりしていましたが、食べてみると外見から受ける印象と全く違って食べやすく、味もいいのでさらにびっくりの様子でした。アメリカの病院では、当センターのような何段階もの嚥下補助食は提供されないようです。

お二人とも卒業後は小児科、特に発達障害などの小児神経疾患の医療を専門にしたいとの希望があり、対応した医局メンバーは強い味方ができたみたいで喜んでしまいました。

できれば毎年同大学から見学を受け入れ、日本の障害者医療制度のよい点を理解してもらえればと思います。最後になりますが、お世話になった各部署の方々、特に栄養科の方々に御礼を申し上げます。



編集後記

今年の桜はゆっくりめの開花でしたが、通勤の道が楽しみな季節になりました。新しい職員の方々をお迎えして、新鮮な気持ちで 4 月がスタートしました。若い職員さんの一生懸命なエネルギーに、利用者さんも生き生きした様子です。センターでのお仕事が大好きになるように願っています。(H.S)

そよ風第 68 号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 平成 24 年 4 月 15 日

発行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10

☎ 042-567-0222

印刷 有限会社 はじめ印刷

☎ 042-560-3031
